

組織体制変更のご挨拶

現在、多くの人々が白血病を始めとする血液疾患で苦しんでいます。

これらの疾患に対し、各医療施設や医療従事者が治癒率と治療の質の向上を目指して努力していますが、さらなる進歩が強く求められています。

こうした病気の診断や治療においては、エビデンス(証拠)に基づく医療、すなわち、大規模の科学的な臨床研究によって得られた信頼できる成績を患者さんに提示し、これらに基づいて診断法や治療法を選択していただく医療が求められています。しかし、エビデンスを創るような臨床研究には多数の患者さんの協力が必須であり、とりわけ患者さんの数がそれほど多くはない白血病を始めとする血液疾患では、多くの医療施設が共同して質の高い臨床研究を行なうことが必要不可欠であるなど、その実施は容易ではありません。

白血病領域での本邦のエビデンスを確立する目的で、1987年に JALSG (Japan Adult Leukemia Study Group、日本成人白血病治療共同研究グループ) という多施設による白血病臨床研究グループが設立され、30年以上にわたってより良い診断・治療法の開発と白血病など造血器腫瘍の治癒率ならびに治療の質を向上させることを目指して活動してきました。2019年3月末時点で、国内218施設が参加しており、多くの医師、研究者、医療従事者らが参加・協力していました。一方で、成人白血病治療を中心とした共同研究を支援すると共に、血液疾患に関する調査研究、教育研修ならびに情報提供等を行い、血液疾患の治療技術、認識を向上させることにより、広く国民の健康増進に貢献する目的で「特定非営利活動法人成人白血病治療共同研究支援機構」(略称 NPO-JALSG) が2006年に設立され、臨床研究などこの領域の様々な活動を支援してきました。

このたび、臨床研究に関する法律が施行され(「臨床研究法」平成31年4月1日施行)、臨床研究を取り巻く環境が大きく変化します。これにきちんと対応し、これまでと同様に、白血病などの血液疾患に関する質の高いエビデンスを創出していくために、JALSG および NPO-JALSG の組織体制を改めて両者を一つの組織とすることとなりました。

新たな機構である「特定非営利活動法人 成人白血病治療共同研究機構 (JALSG)」は、これまで同様に多くの血液疾患で苦しむ人々を救う活動を推進するという公益の観点から、質の高い多施設共同の臨床研究を推進するとともに、血液疾患に関する社会環境の改善に貢献することを理念としています。

平成31年4月1日

特定非営利活動法人 成人白血病治療共同
研究機構
理事長 宮崎泰司